

企画総務委員会 送付2-1

神田警察通りの街路樹の保存と環境保全を求める陳情

受付年月日 令和2年3月2日

陳情者	代表	1名
	提出者	3名
	署名者	180名
	計	184名

神田警察通りの街路樹の保存と環境保全を求める陳情

現在、世界的にSDG.s(持続可能な開発)の展開が主流となっており、とりわけ温暖化の防止が重要課題となっています。神田警察通りの整備においても配慮すべきです。そこで三つの理由から、今ある街路樹をそこで生かすことを求めます。また街路樹を健全に保ち、働きを最大化するため、根圏環境(客土、水の確保)の改善も求めます。

環境への配慮である以下の観点は、直近の神田警察通り沿道整備推進協議会(2020年2月19日)では言及されませんでした。無視できない点ですので、神田を愛する者として強く求めます。

理由1 樹木の命への配慮

人類はこの地球上で生命系の一員として生かされています。人命同様、長年そこで役立ってきた街路樹の命も尊重すべきです。道路改修の度に、育った街路樹を除去するのは持続可能なやり方ではありません。

理由2 低炭酸ガス社会への配慮

日本政府が京都議定書において約束した炭酸ガス削減量を、日本にある樹木の推定数で割ると、樹木1本に期待される炭酸ガス削減量は、3.2kgとなります。そして光合成により、その炭酸ガスから、酸素2.3kg/本、水1.3kg/本が生成される計算です。今ある樹木のこれほどの働きを考えれば、簡単に取り除くことはできません。

理由3 ヒートアイランドの緩和

ヒートアイランド現象による東京の気温上昇は異常なレベルです。熱中症による死亡者は年々増加し、1,000人に迫っています。ヒートアイランド対策は命に直結します。

都市の熱環境の改善に、街路樹、特に連続する街路樹は効果を発揮します。枝ぶりが大きく日陰を作ることが肝要なので、これまで育った樹木こそ大事にしなければなりません。安心安全のために大木が必要なので、位置や樹種などを理由に取り除くべきではありません。

新たに計画される歩道や自転車道が終始直線でなくともいいはず。樹木の存在が環境を良くする以上、樹木を保存したままの道路に、幅員のばらつきがあっても、それは低速走行を促し、譲り合いや優しさも促す事になるでしょう。国交省の道路構造令でも「地域性や環境を鑑みた道づくり」を謳っています。歩道を行く人の命も、樹木やそこに棲む生き物の命も尊重することが、「環境モデル都市」の道に相応しいはず。以上

千代田区議会議員 小林たかや様

2020年3月2日

(他 180名)

